

平成23年第4回 高千穂町議会定例会

一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【8名10件】

質問日	順	質問者	件数	件名	頁
12月14日(水) 10:00~	1	谷川秀憲 議員	1件	1. 消防団運営のビジョンについて	1
	2	戸高清次 議員	2件	1. 第2グラウンドを消防操法施設兼、多目的グラウンドとして整備を行うことについて 2. 高千穂温泉の燃料費削減に繋がるとして導入したエマルジョン装置について	2
	3	佐藤久生 議員	1件	1. 住宅用火災警報器の設置状況及び消火器の取り扱いについて	3
	4	飯干清喜 議員	2件	1. 教育全般について 2. 町職員の採用について	4
	5	熊埜御堂勝彦議員	1件	1. 実施計画事業と優先順位について	5
	6	奈須克喜 議員	1件	1. 平成24年度観光振興対策について	6
	7	工藤博志 議員	1件	1. 行政改革について	7
	8	馬原英治 議員	1件	1. 町内小中学校の統合について	8

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
1	谷川秀憲	1. 消防団運営のビジョンについて	<p>県において今年4月1日現在で行われた消防団実態調査によると、県北9市町村のうち団員が条例定数を満たしているのは、充足率102.8%の椎葉村のみで、ワーストワンの美郷町は充足率67.2%であり、各市町村とも充足率が年々低下しています。</p> <p>本町は650人の定数に対し、601人であり充足率は92.5%となっています。県内26市町村の平均は93.8%で、懸命の確保策にもかかわらず、地域貢献活動への意識の変化や人口減など複数の要因があり、思うような成果が上がっていないのが実情のようです。</p> <p>町民の生命財産を守っていただくためには大変重要な組織であり、充足率の低下を防ぎさらに組織の充実を図る努力も必要ですが、ある程度少子高齢化の時代に即応した改革も必要だと思えます。</p> <p>今後、現況の10分団・33部・650人の団員をどのように確保し、どのように運営するのか、町長のビジョンについてお伺いします。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
2	戸高清次	<p>1. 第2グラウンドを消防操法施設兼、多目的グラウンドとして整備を行うことについて</p>	<p>高千穂町消防操法大会は、総合運動公園を中心に行われていますが、本年も操法大会中に雨により、操法を中断また場所を移動することになりました。</p> <p>消防団の方々は、これまで訓練を行ってきた成果を同じ場所で発揮できない事は、団員も観客の方々も非常に残念であるとのことでした。</p> <p>現在、折原にある第2グラウンドを消防操法施設兼、多目的グラウンドとして整備を行うことが消防団の士気向上に繋がり、重要な取り組みと考えます。</p> <p>本町の消防団組織の役割、重要性は計り知れません。そこで、次の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第2グラウンドを消防操法施設として活用できないか。 2. 第2グラウンドの利活用について、どのように考えているのか。 	町長
		<p>2. 高千穂温泉の燃料費削減に繋がるとして導入したエマルジョン装置について</p>	<p>次に、高千穂温泉の燃料費削減に繋がるとして導入したエマルジョン装置の金額は、3月の予算特別委員会の説明では、エマルジョン装置を設置することにより年間灯油燃料費が400万円の経費削減に繋がるとのことでありました。</p> <p>7月からエマルジョン装置を設置し運転を再開しましたが、1週間後には、装置を停止し、臨時休館を行ったり、館内には異臭が発生するなど、利用者に不快感を与えました。</p> <p>様々な調整、対応を行ってきましたが、燃料費削減に繋がらず装置を運用している時期の方が平成21年、22年を比較すると、燃料費が上がっています。</p> <p>次の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エマルジョン装置機械を撤去し、契約金額の賠償を求める考えはあるのか。 2. 燃料費が増額になった分の、賠償を求めるべきではないか。 3. 温泉施設は開業以来累積赤字が10億近くになりますが、施設利用の解決策、取り組む時期について伺います。 	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
4	飯干清喜	<p>1. 教育全般について</p> <p>2. 町職員の採用について</p>	<p>1. 本町にも教育長のような経歴を持たれた校長、あるいは教育経験者が多くおられます。そういう多くの教育長候補者の中から黒木教育長に就任頂きました。今迄の取り組みについて、特段力を入れられた事があればお伺いします。</p> <p>また、本町の教育委員会や、小中学校の先生方に特別に黒木カラー的なものを出そうとされているのであれば、その点についてもお伺いします。</p> <p>2. 本町の子どもの学力やスポーツ力がどの水準にあるのかお伺いします。多くの塾やスポーツクラブに恵まれた地域の子供達と比べ、不利な状況にならないような配慮がされているのか、合わせてお伺いします。</p> <p>3. 勉強の得意な子どもには、学費支援や生活支援などの多くの奨学制度が用意されていますが、早くに職に就こうする子どもには、何の支援もありません。一概に不公平とは言えないかもしれませんが、何らかの支援があれば、もっとそういう子どもの将来も明るいのではないかと思います。その点についても教育長の見解をお伺いします。</p> <p>団塊の世代と言われる人達が退職され、職員減少の傾向でも、かなりの職員が新たに採用されています。常々、役場職員はサービス業と言われておりますが、最近の職員の中には、そのサービス精神が見られない人も多いように思われます。就職難の折、採用後の仕事より、採用されることに重きを置いたような人優先の採用になっていないかお伺いします。</p> <p>将来にわたり、本当に町民が求めるような、町民の為になる職員の採用に取り組んでいただきたいと思われまます。</p>	<p>教育長</p> <p>町長</p>

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
5	熊埜御堂 勝彦	1. 実施計画事業と優先順位について	<p>本町では、平成24年度当初予算編成方針が示され、国においては今後、震災復旧・復興対策に5年間で国・地方合わせて19兆円、10年間で少なくとも23兆円が見込まれるなど国の財政にも相当な負担がかかることは避けられず、増税の論議も高まっているところである。</p> <p>本町においても、今後の国の予算編成方針が大きく転換することが予想され、予算編成においては、政府の動向を慎重に見極めるなど、県並びに国との連携が不可欠であると考えます。</p> <p>そのような中で、例えば「町営住宅等建設」や「庁舎耐震化工事」又、「新火葬場建設計画」等、今後数年間における投資的経費に係る実施計画事業と各事業の優先順位について尋ねる。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
6	奈須克喜	1. 平成24年度観光振興対策について	<p>平成23年度は、鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火、3月11日に日本中を震撼させた東日本大震災など観光客を取りまく状況は、一難去ってまた一難と厳しい境地に立たされた。</p> <p>町内2ヶ所の駐車場（高千穂峡・あららぎ）10月までの入り込み台数を調べてみますと、昨年比△4,861台となっている。</p> <p>一般的に今年度は感じとして、前半期の落ち込みが多く響いている状態である。</p> <p>今後にむけての明るい材料として、3月には九州新幹線の全線開業や、6月には全国48地域の中で阿蘇くじゅう観光圏に加担し、新たな展開が期待される。</p> <p>観光客約7割が熊本を含めた北部九州方面であり、東南アジアの玄関として、福岡は観光的・物流的にみても高千穂地域にとっては魅力あるマーケットである。</p> <p>福岡の県事務所などを通じて顧客のニーズをいち早く収集し、行政と観光協会が一丸となって取り組むことが必要と考える。</p> <p>1. 観光客にとって現在熊本からのアクセスとして、公共交通機関としてのバスが2便しかなく大変不便である。現在検討されている会員制（YOKARO）福岡～熊本～高千穂をどう考えるか。</p> <p>2. 行政と観光協会の観光宣伝の計画について。</p> <p>3. 雇用拡大協議会の事業が3月で終了するが、行政として必要な事業は残すつもりか。</p> <p>4. 将来福岡に高千穂町単独の（アンテナショップ）計画はできないか。</p> <p>以上4点伺います。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
7	工藤博志	1. 行政改革について	<p>少子高齢化に加え過疎化は更に進行していく中での改革は、大変厳しくもあり重要な課題であると考えております。住民の期待や要望に応え、住民の負担や不安を軽減し、住民サービスの向上に努めることが行政と議会に与えられた使命と考え、次の2点について町長に伺います。</p> <p>1. 各課の統合について 保険課と福祉推進課の統合によりワンストップサービスが一步前進し、このことによる住民サービスの低下や苦情などあまりないようであります。 住民が安心、安全で、心豊かな生活ができる町づくりと、この町に住んでみたくなるような町づくりのためには、さらに各課の統合が必要だと考えますが、今後の統合方針を伺います。</p> <p>2. 職員定数の見直しについて 職員定数の条例は、平成18年に295人、平成19年に284人に現数の改正がされております。平成23年度の職員数は268人前後で推移しておりますが、今後増員の方針がないのであれば、目標定数を定め改正の時期ではないかと考えます。</p> <p>以上2点についてお伺いします。</p>	町長

順	質問者	件名	質問の要旨	質問相手
8	馬原英治	1. 町内小中学校の統合について	<p>高千穂町の総人口も14,000人をきり、町内各地の小中学校も生徒数が減少している。</p> <p>上野地区で小中学校が統合され、学力向上や地域交流などで、有意義な運営がされていると聞いている。統合後の良い点、反省すべき点を伺う。</p> <p>今後は、町内各地の統合も計画する必要があると思われる。特に、岩戸地区は小中学校の「観光客増による交通安全」、中学校の「耐震構造」の問題点がある。</p> <p>現在は、財政問題や跡地利用での課題もあるが、長期計画を推進しながら対応すべきと考え、教育長の考えを伺う。</p>	教育長